公開資料

令和5年度

全国学力・学習状況調査結果

令和5年4月18日実施

我孫子市立並木小学校

○小学校国語＜Ｒ５並木小学校＞

◎本校の平均正答率が県６７％，全国６７．２％を上回っている。
　すべての領域についてよく理解できている児童が多い。
　必要なことを質問しながら聞き，話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる児童が多い。目的を意識して文章を要約することができる児童が多い。漢字を文の中で正しく使うことができる児童も多い。

○成果と課題

話すこと・聞くこと

◇必要なことを質問し，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる児童が多い。

◇目的や意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることができる児童が多い。

書くこと

◇文章や資料を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめることができる児童が多い。

◆図表やグラフなどを用いて，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

読むこと

◇目的に応じ，文章と図表などを結びつけて必要な情報を見付けることができる児童が多い。

◇目的に応じて中心となる語や文を見付けて，文章を要約することができる児童が多い。

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく読んだり，書いたりすることができる児童が多い。

情報の扱い方に関する事項

◇原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる児童が多い。

※問題形式が記述式の問題において，無解答率の割合がやや高かった。

◇…全国平均と比較してよくできている点　◆…課題のある点

○小学校算数＜Ｒ５並木小学校＞

◎本校の平均正答率が県６２．０％，全国６２．５％を上回っている。

すべての領域についてよく理解できている児童が多い。

比例に関する問題ができる児童が多い。加法と乗法の混合した計算をしたり分配法則を用いたりすることができる児童が多い。三角形の意味や性質についての理解に課題がある。

○成果と課題

数と計算

◇（１５１＋４９）×３と１５１×３＋４９×３を計算したり，分配法則を用いたりして答えを求めることができる児童が多い。

◇６６÷３の筆算について，図を基にして各段階の商の意味を考えることができる児童が多い。

図形

◇台形や正方形の意味や性質を理解している児童が多い。

◇テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前がわかる児童が多い。

◆テープを切って開いた三角形を正三角形にするために，どのようにテープを切ればよいかを判断すること，正三角形の意味や性質の理解に課題がある。

◆高さが等しい三角形について，底辺と面積の関係を基にして面積の大小を判断することに課題がある。

変化と関係

◇伴って変わる二つの数量について，表から変化の特徴を読み取ることができる児童が多い。

◇伴って変わる二つの数量の関係が，比例の関係ではないことを説明できる児童が多い。

◆百分率で表された割合についての理解，示された基準量と比較量から割合が３０％になるものを選ぶことに課題がある。

データの活用

◇「以上」の意味を理解し，示された表から必要な数を読み取ることができる児童が多い。

◇二次元の表から，条件に合う数を読み取ることができる児童が多い。

※どの問題においても，無解答が少なかった。

◇…全国平均と比較してよくできている点　◆…課題のある点

児童質問紙から見えてくる並木っ子児童像

基本的生活習慣

○朝食を毎日食べているかの質問に対し，９７％以上の児童が「食べている」「どちらかといえば食べている」と回答し，全国平均を約３ポイント上回った。

○毎日，同じくらいの時刻に寝ているかの質問に「寝ている」「どちらかといえばそうしている」と回答した児童の割合は約８８％で，全国平均を約７ポイント上回った。

朝食を摂ることや一定の就寝時刻にするなど，基本的な生活習慣を身に付けている。

家庭学習，読書の習慣（学習時間等）

○家で，自分で計画を立てて勉強をしているかの質問に「勉強をする」「どちらかといえばする」と回答した児童は，約７３％で全国平均を約２ポイント上回っている。

○学校の授業以外に平日１日２時間以上学習していると回答した児童の割合が約３８％で全国平均を約１０ポイント上回っている。一方，学習時間が１時間以内の児童の割合は，約３２％であった。

○学校の授業以外に１日３０分以上読書をすると回答した児童の割合は約４６％で全国平均を約１０ポイント上回っている。

○新聞を読んでいるかの質問に「毎日読む」「週１～３回読む」と回答した児童の割合は約２０％で，全国平均を約６ポイント上回っている。

本校の児童の家庭学習の状況を分析すると，自分で計画を立てて学習する児童が多い。しかし，学習時間を見ると，比較的長時間学習している児童とそうでない児童に大きく分かれている。また，授業以外にも読書をしたり，新聞を読んだりしている児童が全国平均より多い。

主体的・対話的で深い学びの視点による学習の取組状況

○自分の考えを発表する機会では，自分の考えがうまく伝わるよう，資料や文章，話の組み立てなどを工夫して発表していたかの質問に対し，「発表していた」「どちらかといえば発表していた」と回答した児童の割合が約７４％で全国平均を約１０ポイント上回っている。

○５年生までの授業では，課題の解決に向けて自分で考え，自分から取り組んでいたかの質問に対し，「取り組んでいた」「どちらかといえば取り組んでいた」と回答した児童の割合は，約８３％で，全国平均を約４ポイント上回っている。

○学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができているかの質問に対し，「できている」「どちらかといえばできている」と回答した児童の割合は約８０％で全国平均を約２ポイント下回っている。

○学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができているかの質問に対し，「できている」「どちらかといえばできている」と回答した児童の割合は約８０％で，全国平均とほぼ同じである。

自ら進んで学習できるような手立てを講じ，自分の考えを伝えたり，友達と話し合ったりする活動を取り入れた授業に取り組んだことで，ポイントが向上している。しかし，対話から自分の考えを深めたり，広げたりすることには依然として課題がある。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて，引き続き工夫をしていく必要がある。

自己有用感，規範意識等

○自分には，よいところがあると思うかの質問に対し，「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童の割合は約８５％で全国平均よりも１ポイント上回っている。

○先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思うかの質問に対し，「認めてくれている」「どちらかといえば認めてくれている」と回答した児童の割合は約９１％で全国平均よりも約２ポイント上回っている。

○将来の夢や目標を持っているかの質問に対し，「持っている」「どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合は約８６％で全国平均よりも４ポイント上回っている。

○人の役に立つ人間になりたいかの質問に対し，「なりたい」「どちらかといえばなりたい」と回答した児童の割合は約９９％で全国平均を約３ポイント上回っている。

○人が困っているときは進んで助けているかの質問に対し，「助けている」「どちらかといえば助けている」と回答した児童は約９３％で全国平均よりも約１ポイント上回っている。

○いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思うかの質問に対し，「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童の割合は，１００％で全国平均よりも約３ポイント上回っている。

児童一人一人のよさを認め，そのことを児童が感じられるように働きかけ，自信を持たせてきたことで，自己有用感が高まってきた。将来の夢や目標を持ち，人の役に立ちたい気持ちも高い。また，いじめはいけないことだという意識や、困っている人を助けたいという規範意識も高い。自己有用感や規範意識が高まるよう，引き続き働きかけていく必要がある。

国語の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

○国語の勉強は好きかの質問に対して，「好き」「どちらかといえば好き」と回答した児童の割合は約６４％で，全国平均を約２ポイント上回っている。

○国語の授業の内容はわかるかの質問に対して，「わかる」「どちらかといえばわかる」と回答した児童の割合は約９０％で，全国平均を約４ポイント上回っている。

○国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思うかの質問に対して，「思う」「どちらかといえば思う」と回答した児童の割合は約９４％で全国平均を約１ポイント上回っている。

「生き生きと主体的に学ぶ児童の育成」を目指して国語の研修を行ってきたが，興味・関心を高め，見通しや目的意識を持たせて，文章を読み，書き，話し合う活動をさらに充実させるよう，授業改善に取り組んでいく必要がある。